

令和元年度 教育事業 サイエンススクール

～君も95,000人が体験した実験に参加しよう～



1. ねらい

ワクワク・ドキドキするような科学実験や体験、研究者とのふれあいの機会を通して、子どもの科学に対する興味・関心を深め、知的探求心や創造性を育てる。

2. 実施日

令和2年2月15日（土）～16日（日）1泊2日

3. 対象

小学校4～6年生

4. 参加者 / 募集定員

88名 / 80名

5. プログラム（要約）

近畿大学名誉教授 木村隆良氏、近畿大学工業高等専門学校教授 鈴木隆氏を講師に招き、近畿大学理工会化学研究会の学生スタッフ（以下、学生スタッフ）とともに8種類の実験を行い、9種類のサイエンスショーを実施した。

スケジュール

1日目

【実験】

- ・ 極低温の世界を体験（マイナス200℃）
- ・ 2000℃での錬金術とアルコールの燃焼
- ・ 空気の中身の探索
- ・ 空気砲と空を飛ぶもの

【サイエンスショー】

- ・ 魔法のメスシリンダー
- ・ 手が壁を通りぬける不思議な箱
- ・ 燃え上がる手
- ・ 炎色反応と黒い炎の観測
- ・ 液体窒素、空気、酸素の不思議
- ・ 大気圧の実験
- ・ 浮き上がるボール
- ・ 空気砲
- ・ 水素の早い燃焼

2日目

【実験】

- ・ スライムとスーパーボール
- ・ 音の不思議
- ・ 不思議なロウソク（炎色反応）
- ・ 磁石の不思議

【1日目】

参加者は、学生スタッフから実験方法や化学反応についての説明を受けながら、4種類の実験で起こる不思議な現象を楽しんでいた。



夜の「サイエンスショー」では、木村教授と学生スタッフが行う9種類の実験を観たり体験したりした。大気圧や真空の実験、炎色反応と黒い炎の観測等、次々に繰り出される形や色の変化、音や振動を体感する実験に歓声が上がった。



【2日目】

朝食後、4種類の実験に取り組んだ。実験のため参加者自らが作成したランプやスライム、スーパーボールなどは持ち帰ることができ、参加者たちはとても喜んでた。



6. まとめ

科学漬けの2日間を過ごす中で、たくさんの実験を体感し、学生スタッフにたくさんの質問をすることで科学に対する関心がより一層増したようだ。参加者からは、「小学校では習わないことも教えてもらってよかった」「理科がもっと好きになった」などの感想があった。

今後も近畿大学・近畿大学工業高等専門学校と連携し、子どもたちが科学の楽しさを探求できるような事業にしていきたい。
(企画指導専門職 曾和 良友)